

8	岩見尚夫 金子秀雄 北村祐三 近藤勇夫 馬場ノリ 平川国一 松橋重美 堀良三 佐々木高博 八柳昭義 杉崎孝雄	板倉富彌 今立甲矢雄 長内明德 鎌田吉郎 神山正子 京敬一 佐藤三郎 佐々木弘高 塩山元久 鳴田拓爾 竹内 堯 豊沢充美 豊田 護 奈良弘司 原田幸朗 本庄敬雄 宮腰英彌
9	工藤 豊 佐々木隆 田中郁三 檜森 寛 野呂田徹義 若松正雄	石岡忠治 梅田政男 江川瑞宏 加賀義介 栗和田 嘯 栗原優子 工藤嘉明 斎藤秀夫 七戸節雄 高砂 浩 田村紀允 平川政宏 宮腰香児
10	穴山勝良 雄鹿豊彦 須田正巳 古内 仰 若林莞爾	大高良美 加賀恒成 柴田 武 鈴木 昇 高橋哲也 新川高信 三浦義輝 村岡公夫
11	石川正順 太田勝治 笹木広澄 下間弘道 鳴田雄右 本庄喜代彦 鈴木元紀 田中善明 宮腰瑞夫	赤塚修三 赤塚鉄男 国松英二 小林幹男 佐藤清弘 佐藤晃一 佐藤芙美恵 清水武久 竹内孝男 松岡興紀 吉田忠義
12	小形昇三 小島セイ 田口昌孝 藤田道義	荒谷 誠 石田邦明 熊谷幸夫 佐藤 亘 杉淵治康 武田 茂 千田浩一 野中啓右 平沢正三郎 山本義馬 山田圭一
13	神尾昌俊 城野攻一 布川隆治	大倉報三 加賀宗彦 加賀幸則 笠木宣也 北村幸雄 熊谷博雄 小林武廣 佐藤三男 須藤靖夫 檜森 隆
14	磯部 博 加藤 昭 小高 功 高田政勝 高谷 誠 奈良勝夫 濱谷裕一	石川義彦 大沢忠夫 小澤孝一 宮腰克也 森 喬夫 森田 弘 山田孝行 山本 敏 米沢忠良 渡辺允康
15	小林勝彦 齊藤宏行 清野勝子 武田 功 堀内忠人 矢木信章	越後谷達雄 戸山勇一 船山 稔 檜森忠義 福田健作 三浦節夫 渡辺誠子 石原恵美子 播磨谷謙也
16		梅田俊雄 越後昌樹 北林正晴 畠山 昇 平澤正典 平塚徳子
17	佐々木正男 本庄瑞彦	相沢保紀 信太一高 高松睦夫 三谷洋志 柳谷和夫
18	浅野友城 大野 操 大山金四郎 坂田光男	男鹿谷浩市 工藤正樹 小林公雄 田村規清 畑山進 藤田辰夫
19	井上道晴 今野廣隆 小野津世子 小林雅夫 笹村八州 高松正行 橋本 悟 千葉礼子 高橋ヒサ子 日沼元久 若狭秀巳	浅野 壤 越後義明 大倉久史 加茂谷純一 工藤栄喜 武田 正 辻 敏 平塚たづ子
20	伊藤陽一	青柳信夫 柏木秀憲 鎌田邦明 川村 孝 菊池正巳 金野正道 坂田二郎 柴田真理子 森岡俊明 山田 豊
21	小笠原牧子 熊谷一美 菅原 涉	阿部 清 大高正典 小田切春美 工藤長昭 金野峻明 後藤幸一 佐藤 司 武田信雄 田村 猛 直島博明 畠山輝一
22		熊澤朝子 佐々木博 柴田正信 林 信子 三浦和信
23	小河範也	阿部義三 加藤秋夫 高畑 仁
24	工藤俊一	菊池雄三 工藤雅信 山本良寿
25	高橋敦子	大山 等 小林 彰 佐藤義宏
26		伊藤幸彦 伊藤裕子 菊地勇作 桜田 勇 佐保田朋子 庄内俊恵 長岡幸夫 針金三弥 渡辺隆幸 金田千穂子
27		金田 優 高井一男
28	泉富士男 吉田真由美	
29		
30		
31		仙台英俊 鈴木裕美子 長谷川徹 安田光教

出席者 旧 制 33名 新 制 103 (女性11) 名 同伴者 4名
招待者 11名 合計 151名
欠席者 旧 制 89名 新 制 226名 合計 315名

市民憲章、市の花・木・鳥決まる

能代市（旧扇瀧村、檜山町、鶴形村、浅内村、常盤村を編入）

ちよつと古い話題になるが、市は50周年を迎えたことを機に、郷土を愛し、緑に囲まれた快適な環境作りを進めるため、昨年十月一日の市制記念日に市民憲章及び市の花（ハマナス）、木（クロマツ）、鳥（カモメ）を制定した。

憲章は、子供からお年寄りまでみんなに理解できる表現で、前文に能代の特徴を表した自然環境、歴史性を盛り込み、本文は自然・健康・文化・家庭・安全の五項目からなっている。

「前文」わたしたちは、広い日本海、緑の松原と豊かな流れの米代川に恵まれ、港と木材のまちとして栄えてきた能代市民です。わたしたちは、この美しい風土と先人の遺業に深く感謝し、明るく住みよいまちを築くために、この憲章をかかげます。

一、自然を愛し、緑をそだて、美しいまちをつくりまします。

一、健康で、働くことに喜びをもち、活気あるまちをつくりまします。

一、学ぶ心を育て、薫り高い文化のまちをつくりまします。

一、家庭を大切にし、心のふれあうあたたかいまちをつくりまします。

一、きまわりを守り、安全で清潔なまちをつくりまします。



市の花となったハマナスはバラ科の落葉灌木で、古くから能代海岸砂丘地にも多く自生し、かつては染料の原料として利用されたほか、その実はお盆には欠かせないもので、市民にとって愛着の深い花である。

また、能代市は海からの強い西風と海岸の飛砂に悩まされてきたが、多くの先人が植林に努めた結果、今では海岸一帯はクロマツの美しい樹林となり、日本一の規模を誇ると同時に、市民の憩いの場として親しまれている。

セグロカモメ、ユリカモメ、ウミネコなど、カモメ科の海鳥は四季を通じて能代港や米代川に飛来する。その白い飛翔は青い空、紺碧の海に美しく映え、冬には数万羽の群舞が見られる。カモメは市民にとっていはば身近な鳥である。

在京能代会 会長・宮腰 茂氏

事務局・安岡政勝氏

0473-53-1687

ふるさと文化財保存に地道な努力

藤里町（旧藤琴村、粕毛村を合体）

町の教育委員会はこのほど小冊子「藤里の文化財―石像塔碑編（B6判・六十六ページ）」を刊行した。これは昨年刊行された「神社編」に続く第二弾で、町内百七基の石塔や石碑が写真入りで紹介されている。所在地や塔・碑の種類、建立年月日、碑文、大きさなどの説明がある。

最も多いのは記念碑で十八基、次いで今なお多くの人に信仰されている庚申塔が十七基、石灯笼が十一基、こま犬七基などとなっている。

また、この中には百六十年ほど前に建てられた宝昌寺境内の餓死霊碑や鹿瀬内沢国右林にある大正九年の藤駒岳での遭難死供養塔、昨年町内五カ所に建てられた菅江真澄歌碑も掲載されている。

町教育委員会では、町文化財保護審議会と合同で、藤里町の文化財の記録保存や町民の文化財保護意識の高揚をねらって、昨年「藤里の文化財シリーズ」として、七人の町文化財保護審議会委員が現地調査を担当し、町教育委員会事務局で写真撮影と編集を行って、年次計画で刊行物を発行する。なお、来年は「巨木名木編」を刊行の予定である。

在京藤里会 会長・加賀谷長市氏

事務局・藤里町役場

0185-79-2111